

1 地域がん診療連携拠点病院としての役割

当院は2007年1月28日に「地域がん診療連携拠点病院」に認定され、高度ながん診療を提供するために、認定病院に求められる様々な要件整備とがん診療関連業務の拡充を行ってきた。2010年2月に施設認定が更新された。

1. がん診療業務を支える院内体制

がん診療はまさにチーム医療の原点であり、「地域がん診療連携拠点病院」としての診療提供機能維持に求められる要件は多岐にわたる。そのため、院内における中心的・統括的組織としての「がん診療連携業務委員会」を設立し、その下部に個々の業務を集約する放射線治療、化学療法、がん相談支援、がん登録、4の小委員会を設置している。

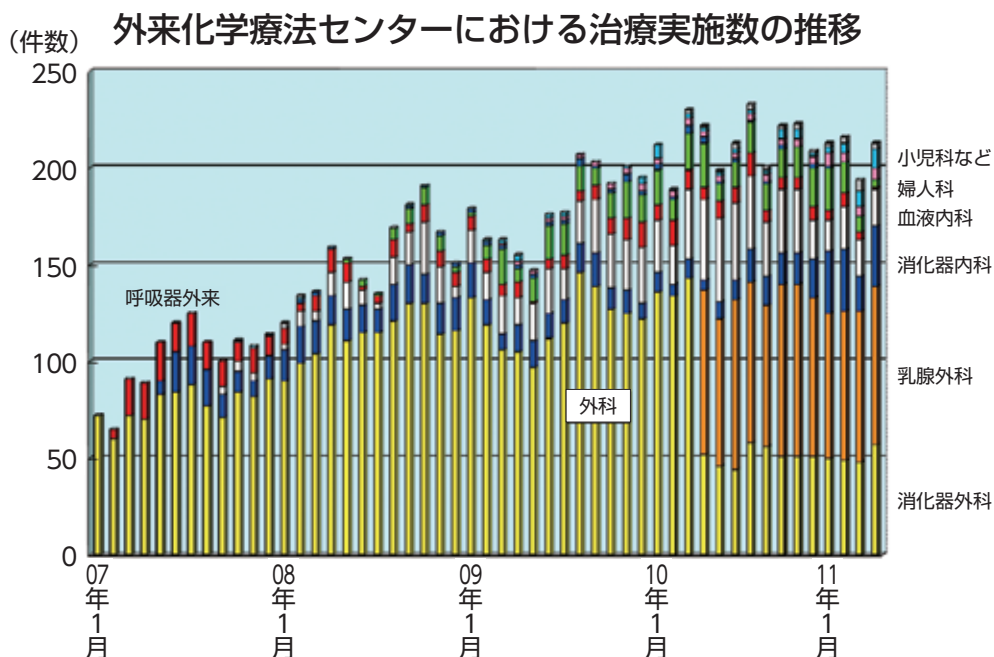
2. がん化学療法及び外来化学療法センターの現状

2007年1月に「外来化学療法センター」を新設し、2009年4月には消化器内科、呼吸器内科、血液内科、泌尿器科、小児科、婦人科、整形外科、腎臓内科の合計10診療科領域の疾患に適応を拡大した。開設から2011年3月までにセンターで実施した化学療法件数の推移を図1に示す。2010年4月より外科症例を乳腺外科と消化器外科に分けて示している。実施症例数は順調に増加し2009年の後半には1ヶ月平均200件を超えるようになった。

2008年10月からは化学療法認定看護師が、また2010年1月からは日本腫瘍学会及び日本化学療法学会の認定指導医が専従で勤務している。2010年11月からはこの認定指導医と認定看護師が外来・入院がん患者を対象にがん患者カウンセリングを開始し、2011年4月までに32症例に対してカウンセリングを行った。

センターに隣接した薬剤調整室では、専任薬剤師がセンターで行う外来患者の抗がん剤のみならず、入院患者に対する抗がん剤調整業務も行っている。2010年度は入院症例で3,982件、外来症例で7,850件の薬剤調整を行った。2012年度末に完成予定の新北館には、より快適な化学療法実施環境を目指して、現在の10床から16床に増床した新しい外来化学療法センターを開設する計画である。

院内で行われる化学療法内容（レジメン）はすべて化学療法小委員会で検討したうえで承認・登録されている。これまでに登録されたレジメンは9診療科の235種類である。あらかじめ承認登録されたレジメンフォルダーから処方オーダーすることにより、薬剤、容量や投与回数、日数などの間違いを防ぎ、より高い安全性を確保している。



3. 放射線治療体制の充実

2007年度の厚生労働省による放射線治療機器緊急整備事業で、当院にリニアック緊急整備補助金が交付され、2009年8月に最新鋭リニアックが配備された。このリニアックにはガントリーにkV管球とフラットパネル検出器が取り付けられており、kVビームによる明瞭な画像による骨照合や、透視像での照射目的病巣の描出、コーンビームCTの撮像も可能となり、最先端の外照射が可能となった。この高性能リニアックにより、通常照射においても腫瘍に対する線量集中性の向上や、正常組織への線量軽減が図れているが、さらにハイテク照射の極みである高精度放射線治療も可能となった。2009年10月からは肺癌や肺転移、肝癌や肝転移に対するいわゆるピンポイント照射である体幹部定位照射、2010年2月からは脳腫瘍や脳転移に対する脳定位照射、2011年2月からは保険診療として強度変調放射線治療（IMRT）を開始した。またIMRTの中でも最新鋭治療とされている強度変調回転照射（VMAT）も同時に開始した。現在IMRT・VMATの対象は前立腺癌、脳腫瘍であるが、今後診療体制をさらに充実させ、子宮頸癌術後や頭頸部癌、肺癌などの根治症例や、骨転移、再照射症例などへの緩和的放射線治療への適応・導入も目指している。

また最新鋭治療のみならず、すでに2007年から開始している子宮癌等に対するCTやMRIを併用した先進的な画像誘導の高線量率（HDR）腔内照射、2008年から開始した前立腺癌に対するヨード125シード永久挿入術、前立腺癌や子宮頸癌、乳癌術後等に対するHDR組織内照射、多発性骨転移に対するメタストロン治療などの充実した内治療、内用治療を行っている。

当院はこのように充実した外照射、内照射、内用治療を、自在に最適に組み合わせることによって、患者さんに優しいがん治療を目指しており、さらに地域がん診療連携拠点病院として技術・知識・経験の蓄積を行い、地域医療機関との連携をさらに深め、国内有数の総合的包括的放射線治療施設を目指している。

4. がん相談支援業務の現状

がん診療には、地域の医療機関からがん患者を受け入れ、当院での高度ながん治療を行った後に治療の継続として地域の医療機関に紹介する、いわゆる切れ目のない地域連携業務が重要である。この業務の中心的役割を果たす地域医療連携室では、病院間の転院調整（病病連携）、在宅療養に向けた介護サービス担当者との調整、在宅療養の中心的役割を担う診療所との調整（病診連携）や、患者や家族の精神的・経済的不安に対する対応などを行っている。2010年度には延べ349名への相談・支援業務を行い、面接、電話、ファックスによる相談業務の延べ件数は2,219件であった。

年2回定期開催している「京都市立病院地域医療フォーラム」では、1回はがん診療関連テーマを取り上げており、地域住民はもとより地域の医療施設職員に対する教育・啓蒙活動を行っている。2011年2月12日には第14回として「婦人科がんをめぐる最近のトピックス」を開催した。

がん患者と家族の会「みぶなの会」は2009年6月に発足したが、2010年10月には回数を月1回から2回に増やして定期開催している。患者間の情報交換の場所としてのみならず、2回に1回の割合で頭髮ケア、抗がん剤の副作用、インフルエンザ対策、緩和ケア、サプリメント、フットケア、放射線治療などに関するミニ教育講演を同時開催しており参加者から好評を得ている。発足以来これまでに187名が参加した。また2010年11月に始まった乳癌患者の会「ビスケットの会」の運営も支援している。当院は京都府がん診療連携事業のがん相談支援部門の中心的施設として、京都府下の支援病院・協力病院の相談支援事業の指導的役割を担っている。

5. がん登録業務の現状

2006年後半より診療情報管理室が管理する形式で国立がんセンターの登録様式に則った院内がん登録制度を全診療科に適応し、このデータを基に京都府へのがん登録を行っている。院内がん登録（国立

がんセンターに報告) 総数・地域がん登録(京都府に報告) 総数は、2007年：773症例・710症例、2008年：940症例・865症例、2009年：1,005症例・887症例と年々増加しており、2010年の京都府への登録数は1,045症例である。これまでの手書き記載方式は、2008年5月の電子カルテ導入により簡素化・自動化され、複数診療科からの重複登録が無くなり、より正確で迅速な登録が可能になった。このような登録制度の充実を受けて、予後調査業務も診療情報管理室が一括して実施している。2009年から始めた住民票照会による調査では、2010年3月末現在、京都市在住で1年以上当院外来受診がなかった342症例に住民票照会による予後調査を行った。その結果170名の生存確認と126名の死亡確認が行われた。今後もより精度の高い予後調査を目指して住民票照会による予後調査を行う計画である。

6. 緩和医療の充実

2006年4月に設立された緩和ケアチームは、医師4名、看護師4名、薬剤師2名と歯科衛生士1名でチームを構成し、これまでに約100症例で約600回の診療ラウンドと緩和ケア外来を行ってきた。さらに院内外の医療従事者を対象に緩和ケア研修会を行ってきた。院外では厚生労働省と日本緩和医療学会の開催指針に準じ、主として医師を対象とした研修会を2010年6月までに2回開催し、2011年も6月24日と25日に開催予定である。また、院内職員と地域の医療従事者を対象にした6回連続の研修会を3クール行い、延べ約1,000名の受講者があった。6回の研修会を全て受講した職員は、各職場での診療のリーダー的な役割を担っている。また地域住民を対象とした緩和医療の啓蒙活動をこれまでに4回行ってきた。緩和ケアは医療従事者にも周知できていない部分があり、今後も癌診療に携わっているすべての医師・看護師のみならず、医療従事者全員にその本質を知ってもらえるよう、勉強会や研修会を通じて積極的な働きかけを行っていく計画である。2013年度に完成予定の新北館には10床の緩和病床が設置される計画であり、緩和医療のさらなる充実に向けた積極的な医療を提供していく。

7. がん診療専門コメディカルの育成と認定資格修得に向けて

がん診療に限らず医療全体を充実させるためにはチーム医療を担う専門知識や技術を持ったコメディカルの養成が必須である。

看護部門では2010年度までに7名の看護師が、①がん化学療法看護、②緩和ケア、③皮膚排泄ケア、④摂食・嚥下障害看護、⑤集中ケア、⑥感染管理、⑦がん放射線療法看護部門の認定看護師資格を取得した。この中でも特にがん診療に関連が深い①がん化学療法看護、②緩和ケア、③皮膚排泄ケア、④摂食・嚥下障害看護、⑦がん放射線療法認定看護師は、外来化学療法センターの専従看護師としてがん患者カウンセリングを担当し、その他の認定看護師は緩和ケアラウンド、NSTラウンド、褥瘡管理ラウンドなどのチーム医療のメンバーとして深く関与している。

放射線治療体制の充実には放射線治療の専門知識を持った放射線技師の配置が必須であり、現在放射線治療専門技師1名が従事している。現在放射線治療品質管理士や医学物理士などの認定資格取得を目指して研修に励んでいる。

薬剤科ではがん専門薬剤師1名、がん薬物療法認定薬剤師1名が、がん診療に関するチーム医療に従事して専門性を発揮している。

8. 院内Cancer Board Meetingの現状

がん診療はチーム医療の原点であるとの観点から、従来の診療科医師による症例カンファレンスを、2008年に臨床病理検査技師、放射線科技師、看護師、薬剤師などの多職種が参加するCancer Board Meetingに再編成した。現在、消化器、呼吸器、泌尿器、婦人科、肝臓、乳腺、血液の各Cancer Board Meetingが活動しているが、2010年度の開催実績(開催回数;検討症例数)は、消化器:91回;177症例、呼吸器:41回;172症例、婦人科:12回;84症例、肝臓:26回;58症例、乳腺:43回;126症例、血液:18回;61症例、小児造血細胞移植:7回;17症例などであった。

2 平成22年度疾患別がん診療機能、診療実績、認定資格、治療指針、治療成績等について

がん診療業務概要
平成22年度疾患別がん診療機能、診療実績、認定資格、治療指針、治療成績等について

| 疾患名 | 治療内容 | 診療実績(件数) | 医師の専門分野・認定資格 | 使用しているガイドライン等 | 生存率その他特記事項 |
|--------------|------------------|----------------|---|--|---|
| 肺がん 縦隔腫瘍 | 手術 | 46例(胸腔鏡下手術36例) | 江村 正仁 呼吸器内科部長(呼吸器疾患の診断・治療、間質性肺炎の診断・治療) • 日本呼吸器学会指導医 • 日本呼吸器内視鏡学会指導医 • 日本内科学会認定医 | EBMの手法による肺癌診療ガイドライン2003年版及び2005年版(日本肺癌学会) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) 肺癌取り扱い規約(改定第7版)2009年 | 非小細胞肺癌(2005~2010年度非手術症例) 1生率 30% 2生率 13% 小細胞肺癌(2005~2010年度非手術症例) 1生率 42% 2生率 8% 肺癌手術後5年累積生存率 IA 74.3% IB 56.0% II 54.7% III 22.7% |
| | 化学療法 | 112例 | 大迫 努 診療科統括部長(呼吸器外科、肺癌、縦隔腫瘍、胸腔鏡手術) • 日本胸外科学会指導医 • 日本呼吸器外科学会専門医 • 日本呼吸器内視鏡学会指導医 • 日本呼吸器学会専門医 • 日本がん治療認定医機構暫定教育医 | | |
| | 放射線療法 | 66例 | 宮原 亮 呼吸器外科部長(呼吸器外科、肺癌、縦隔腫瘍、胸腔鏡手術) • 日本胸外科学会認定医 • 日本呼吸器外科学会専門医 • 日本外科学会専門医 • 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 3例 | | | |
| 胃がん 胃腫瘍 | 手術 | 39例(腹腔鏡下手術9例) | 新谷 弘幸 副院長(消化器病、肝臓病) • 日本消化器病学会専門医(指導医) • 日本肝臓学会専門医(指導医) • 日本内科学会認定医 | 胃癌治療ガイドライン2010年版(日本胃癌学会) 消化器内視鏡ガイドライン2006年版(日本消化器内視鏡学会) GIST診療ガイドライン2010年(日本癌治療学会/GIST研究会) | 手術症例 5年累積生存率 IA 97.8% IB 95.6% II 76.9% III A 54.1% III B 18.5% IV 5.1% 全体 70.3% (2010年3月末現在) |
| | 内視鏡的切除術(EMR-ESD) | 45例 | 吉波 尚美 総合内科部長(消化器病、肝臓病、内視鏡) • 日本内科学会専門医 • 日本消化器病学会専門医(指導医) • 日本消化器内視鏡学会専門医(指導医) • 肝臓学会専門医(指導医) • 日本内科学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医 | | |
| | 化学療法 | 52例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 2例 | | | |
| 大腸がん 大腸腫瘍 | 手術 | 90例(腹腔鏡下手術47例) | 相島 寿彦 消化器内科副部長(消化器病、肝臓病、がん薬物療法) • 日本消化器病学会専門医 • 日本肝臓学会専門医 • 日本内科学会認定医 • 日本がん治療認定医機構認定医 | 大腸癌治療ガイドライン2010年版(大腸癌研究会) GIST診療ガイドライン2010年(日本癌治療学会/GIST研究会) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | 手術症例 5年累積生存率 IA 100.0% IB 96.4% II 87.4% III A 77.6% III B 62.7% IV 16.3% 全体 70.8% (2010年3月末現在) |
| | 内視鏡的切除術(EMR-ESD) | 171例 | 山下 靖英 内視鏡室副部長(消化器病、内視鏡) • 日本消化器病学会専門医 • 日本消化器内視鏡学会専門医(指導医) • 日本内科学会認定医 • 日本がん治療認定医機構認定医 | | |
| | 化学療法 | 72例 | | | |
| | 放射線治療 | 12例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 1例 | | | |
| 肝がん 肝腫瘍 | 手術 | 11例 | 元好 貴之 消化器内科医長(消化器病) • 日本内科学会認定医 • 日本消化器病学会専門医 • 日本がん治療認定医機構認定医 • 日本消化器内視鏡学会専門医 | 肝がん診療ガイドライン2009年版(科学的根拠に基づく肝癌診療ガイドライン作成に関する研究班) | 全切除症例 5年累積生存率 60.2% (2010年3月末現在) |
| | 化学療法 | 20例 | 高井 孝治 消化器内科医員(消化器病) • 日本内科学会認定医 • 日本がん治療認定医機構認定医 | | |
| | 穿刺療法(PEI/RFA) | 51(31/20)例 | 西方 誠 総合内科・消化器内科医長(消化器病) | | |
| | 肝動脈塞栓術(TAE) | 107例 | 松田 昌悟 消化器内科医員(消化器病) • 日本内科学会認定医 | | |
| 食道がん | 手術 | 3例 | 森本 泰介 副院長(一般外科、消化器外科、肝臓外科) • 日本外科学会専門医(指導医)、 • 日本消化器外科学会専門医(指導医) • 日本がん治療認定医機構暫定教育医 • 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医 | 食道癌治療ガイドライン2007年版(日本食道疾患研究会) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | 手術症例 5年累積生存率 0 100.0% I 67.9% II 63.3% III 43.2% IV 0.0% 全体 55.3% (2010年3月末現在) |
| | 内視鏡的切除術(EMR-ESD) | 9例 | 山本 栄司 消化器外科部長(一般外科、消化器外科) • 日本外科学会専門医(指導医) • 日本消化器外科学会専門医(指導医)、 • 日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医 | | |
| | 化学療法 | 5例 | | | |
| | 放射線化学療法 | 17例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 胆嚢がん 胆管がん | 手術 | 4例 | 松尾 宏一 消化器外科副部長(一般外科、消化器外科) • 日本外科学会専門医 | 胆道癌診療ガイドライン(第1版)(日本肝胆膵外科学会、日本癌治療学会) | 全切除症例 5年累積生存率 48.9% (2010年3月末現在) |
| | 化学療法 | 14例 | 里 輝幸 外科医長(一般外科、消化器外科、外傷) • 日本外科学会専門医 • JATECインストラクター | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 2例 | | | |
| 膵がん 膵腫瘍 | 手術 | 5例 | 上 和広 外科医長(一般外科、消化器外科) | 膵癌診療ガイドライン2009年版(日本膵臓学会) IPMN/MCN国際診療ガイドライン(国際膵臓学会ワーキンググループ) | 全切除症例 5年累積生存率 35.8% (2010年3月末現在) |
| | 化学療法 | 33例 | 玉置 信行 外科医長(一般外科、消化器外科) • 日本外科学会専門医 | | |
| | 放射線化学療法 | 9例 | 片山 外大 外科医員(一般外科、消化器外科) | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | 玉木 一路 外科医員(一般外科、消化器外科) 奥野 将之 外科医員(一般外科、消化器外科) | | |

| 疾患名 | 治療内容 | 診療実績(件数) | 医師の専門分野・認定資格 | 使用しているガイドライン等 | 生存率その他特記事項 |
|----------|-----------------|--------------|--|---|--|
| 乳がん・乳腺腫瘍 | 手術 | 75例 | 森口 喜生 乳腺外科部長(一般外科、消化器外科、乳腺外科) <ul style="list-style-type: none"> 日本外科学会専門医(指導医) 日本乳癌学会専門医 日本がん治療認定医機構暫定教育医 西江 万梨子 乳腺外科医員(一般外科、消化器外科、乳腺外科) | 乳癌診療ガイドライン2010年版(日本乳癌学会) 乳房温存療法ガイドライン2005年版(標準的な乳房温存療法の実施要項の研究班) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | 手術症例 10年累積生存率 I 94.5% IIA 89.2% IIB 83.5% IIIA 76.2% IIIB 63.8% IV 32.1% 全体 83.9% (2010年3月末現在) |
| | 化学療法 | 346例 | | | |
| | 放射線療法 | 125例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 1例 | | | |
| 前立腺がん | 手術 | 9例 | 上田 朋宏 泌尿器科部長(泌尿器科癌治療) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 日本がん治療認定医機構暫定教育医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 田上 英毅 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) | 前立腺癌診療ガイドライン2006年版(日本泌尿器科学会編) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法(ホルモン療法) | 142例 | | | |
| | 放射線療法(組織内照射) | 13例 | | | |
| | 放射線療法(外照射) | 45例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 2例 | | | |
| 膀胱がん | 手術(膀胱全摘) | 1例 | 上田 朋宏 泌尿器科部長(泌尿器科癌治療) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 日本がん治療認定医機構暫定教育医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 田上 英毅 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) | | |
| | 経尿道的膀胱腫瘍切除(TUR) | 75例 | | | |
| | 化学療法 | 28例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 1例 | | | |
| 尿路がん | 手術 | 7例 | 上田 朋宏 泌尿器科部長(泌尿器科癌治療) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 日本がん治療認定医機構暫定教育医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 田上 英毅 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) | | |
| | 化学療法 | 11例 | | | |
| | 放射線療法 | 14例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 2例 | | | |
| 精巣がん | 手術 | 3例 | 上田 朋宏 泌尿器科部長(泌尿器科癌治療) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 日本がん治療認定医機構暫定教育医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 田上 英毅 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) | 放射線治療計画ガイドライン2004年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 0例 | | | |
| | 放射線療法 | 5例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 腎がん | 手術 | 8例(腹腔鏡下手術3例) | 上田 朋宏 泌尿器科部長(泌尿器科癌治療) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 日本がん治療認定医機構暫定教育医 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 田上 英毅 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) 伊藤 将彰 (泌尿器科手術一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本泌尿器科学会専門医(指導医) | | |
| | 化学療法 | 6例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 2例 | | | |
| 子宮がん | 手術 | 56例 | 藤原 葉一郎 産婦人科部長(婦人科一般、周産期管理、産婦人科感染症、性感染症) <ul style="list-style-type: none"> 日本産科婦人科学会専門医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 日本性感染症学会専門医 大井 仁美 産婦人科医員(周産期管理) <ul style="list-style-type: none"> 日本産科婦人科学会専門医 小藪 祐喜 産婦人科医員(婦人科一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本産科婦人科学会会員 | 子宮頸癌治療ガイドライン2007年版(日本婦人科腫瘍学会編) 子宮体癌治療ガイドライン2009年版(日本婦人科腫瘍学会編) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 42例 | | | |
| | 放射線療法 | 46例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 1例 | | | |
| 卵巣がん | 手術 | 11例 | 藤原 葉一郎 産婦人科部長(産婦人科一般、周産期管理、産婦人科感染症、性感染症) <ul style="list-style-type: none"> 日本産科婦人科学会専門医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 日本性感染症学会専門医 大井 仁美 産婦人科医員(周産期管理) <ul style="list-style-type: none"> 日本産科婦人科学会専門医 小藪 祐喜 産婦人科医員(婦人科一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本産科婦人科学会会員 | 卵巣がん治療ガイドライン2010年版(日本婦人科腫瘍学会編) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 40例 | | | |
| | 放射線療法 | 4例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 頭頸部がん | 手術 | 28例 | 上田 大 耳鼻咽喉科副部長(耳鼻咽喉科一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本耳鼻咽喉科学会専門医 信原 健二 耳鼻咽喉科医長(耳鼻咽喉科一般) <ul style="list-style-type: none"> 日本耳鼻咽喉科学会専門医 | 頭頸部がん取り扱い規約 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) がん疼痛ガイドライン(日本緩和医療学会) | |
| | 化学療法 | 38例 | | | |
| | 放射線療法 | 26例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |

| 疾患名 | 治療内容 | 診療実績(件数) | 医師の専門分野・認定資格 | 使用しているガイドライン等 | 生存率その他特記事項 |
|------------------|---------------|----------------------|---|--|---|
| 甲状腺がん | 手術 | 19例 | 上田 大 耳鼻咽喉科副部長(耳鼻咽喉科一般) ・日本耳鼻咽喉科学会専門医 | 甲状腺癌取り扱い規約第6版(甲状腺外科学会) 放射線治療計画ガイドライン2004年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 0例 | 信原 健二 耳鼻咽喉科医長(耳鼻咽喉科一般) ・日本耳鼻咽喉科学会専門医 | | |
| | 放射線療法 | 3例 | 小松 弥郷 内分泌内科学部長(内分泌代謝学全般) ・日本内分泌学会専門医(指導医) | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | 旗谷 雄二 内分泌内科副部長(内分泌代謝学全般) ・日本内分泌学会専門医 ・日本甲状腺学会専門医 | | |
| 血液腫瘍(白血病、リンパ腫など) | 化学療法 | 血液内科600例 | 伊藤 満 血液内科学部長(臨床血液学、造血器悪性疾患の治療、造血幹細胞移植) ・日本血液学会専門医(指導医) ・日本臨床腫瘍学会暫定指導医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医 宮原 裕子 血液内科副部長(臨床血液学、造血器悪性疾患の治療、造血幹細胞移植) ・日本血液学会専門医 ・日本臨床腫瘍学会暫定指導医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医 鷹尾 珠美子 血液内科医長(臨床血液学、造血器悪性疾患の治療、造血幹細胞移植) ・日本血液学会専門医 | 急性白血病:JALSG. AML201. APL204. ALL202 慢性骨髄性白血病: JALSG. CML202に準拠 骨髄異形成症候群: JALSG. MDS200 非ホジキン悪性リンパ腫:R-CHOPをはじめとする標準的治療を施 | 血液内科 非血縁者間骨髄移植や臍帯血移植にも対応している。 ミニ移植やHLA一部不適合ドナーからの移植も行っている。 自家末梢血幹細胞移植5年生存率(全例)65.0% 急性骨髄性白血病3年生存率 43.0% |
| | 移植 | (同種移植)2例 (自家移植)4例 | | | |
| | 放射線治療 | 9例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| | 無菌室設置の有無(病床数) | 2床 | | | |
| 小児血液腫瘍/小児腫瘍 | 化学療法 | 50例 | 黒田 啓史 小児科部長(血液・悪性腫瘍) ・日本小児科学会専門医 ・日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医 ・日本血液学会専門医 ・日本小児血液・がん学会暫定指導医 清水 恒広 感染症科部長(感染症一般・小児血液・腫瘍性疾患の診断と治療) ・日本小児科学会専門医 大曾根 真也 小児科医長(血液・悪性腫瘍) ・日本小児科学会専門医 ・日本がん治療認定医機構認定医 ・日本血液学会専門医 ・日本小児血液・がん学会暫定指導医 | 小児白血病研究会(JACLS):ALL-02 日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG):AML-05、AML-D05、AML-P05、LLB-NHL-03、B-NHL-03、ALL-R08、HLH2004 日本ランゲルハンス細胞組織球症研究グループ(JLSG):LCH-02 日本神経芽腫研究グループ(JNBSG)治療指針 | 造血細胞移植に力を入れている。 |
| | 移植 | (同種移植)1例 | | | |
| | 手術 | 0例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| | 無菌室設置の有無(病床数) | 2床 | | | |
| 脳腫瘍 | 手術 | 18例 | 村井 望 脳神経外科部長(脳神経外科一般) ・日本脳神経外科学会専門医 河原崎 知 脳神経外科医長(脳神経外科一般) ・日本脳神経外科学会専門医 | 放射線治療計画ガイドライン2004年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 4例 | | | |
| | 放射線療法 | 39例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 性腺外胚腫瘍 | 化学療法 | 0例 | 村井 望 脳神経外科部長(脳神経外科一般) ・日本脳神経外科学会専門医 上田 朋宏 泌尿器科部長(泌尿器科癌治療) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) | 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 骨軟部腫瘍 | 手術 | 0例 | 吉田 徹 泌尿器科副部長(泌尿器科手術一般) ・日本泌尿器科学会専門医(指導医) 田上 英毅 (泌尿器科手術一般) ・日本泌尿器科学会専門医 伊藤 将彰 (泌尿器科手術一般) ・日本泌尿器科学会専門医 | 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | |
| | 化学療法 | 0例 | | | |
| | 放射線療法 | 54例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 皮膚腫瘍 | 手術 | 19例 | 小西 啓介 皮膚科部長(皮膚科全般) ・日本皮膚科学会認定皮膚科専門医(指導医) | 皮膚悪性腫瘍ガイドライン(日本皮膚科学会) 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | 集学的治療を要する場合は、京都府立医科大学附属病院へ紹介(4例) |
| | 化学療法 | 0例 | | | |
| | 放射線療法 | 0例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 原発不明がん | 化学療法 | 2例 | すべてのCancer Board Meeting が合同で症例検討し、担当診療科を決定 | 原発不明がん診療ガイドライン2010年版 | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 眼腫瘍 | 手術 | 0例 | 小泉 関 眼科部長(網膜硝子体疾患) ・日本眼科学会専門医 鈴木 智 眼科副部長(角膜疾患) ・日本眼科学会専門医 吉田 祐介 眼科医長(眼科一般) ・日本眼科学会専門医 | | |
| | 眼動注 | 0例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |

2 平成22年度疾患別がん診療機能、診療実績、認定資格、治療指針、治療成績等について

| 疾患名 | 治療内容 | 診療実績(件数) | 医師の専門分野・認定資格 | 使用しているガイドライン等 | 生存率その他特記事項 |
|----------|---------------------------|----------|---|---------------------------------|---|
| 脊椎腫瘍 | 手術 | 6例 | 永原 亮一 整形外科副部長(脊椎外科) <ul style="list-style-type: none"> 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医 日本整形外科学会脊椎脊髄病医 | 放射線治療計画ガイドライン2008年度版(日本放射線腫瘍学会) | 主に癌の脊椎転移による脊髄麻痺に対する手術を行っている。単発性転移で根治を望める場合は脊椎全摘も行う。 |
| | 化学療法 | 0例 | | | |
| | 放射線治療 | 2例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| その他のがん | 手術 | 2例 | | | |
| | 化学療法 | 3例 | | | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | 0例 | | | |
| 放射線診断・治療 | 放射線治療・IVR実績は各疾患欄に集約して記載済み | 2例 | 早川 克己 放射線科部長(放射線診断) <ul style="list-style-type: none"> 日本医学放射線学会専門医 IVR学会専門医 谷掛 雅人 放射線科副部長(放射線診断) <ul style="list-style-type: none"> 日本医学放射線学会専門医 立入 誠司 放射線科副部長(放射線治療) <ul style="list-style-type: none"> 日本医学放射線学会専門医(治療) 日本医学放射線学会医学物理士 日本放射線腫瘍学会認定医 放射線治療品質管理機構放射線治療品質管理士 日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医 日本乳癌学会乳腺専門医 | 放射線診療計画ガイドライン2008年版(日本放射線学会) | |
| | セカンドオピニオンへの対応 | | | | |
| 病理診断 | | | 浦田 洋二 病理診断科部長(病理学) <ul style="list-style-type: none"> 日本病理学会病理専門医 榎野 陽子 病理診断科医長(病理学) <ul style="list-style-type: none"> 日本病理学会病理専門医 | | |